

再生への響き～今、そしてその先へ



森垣桂一 Keiichi MORIGAKI

東京藝術大学作曲科卒業。1975年より、パリ国立高等音楽院で音楽理論と作曲を学ぶ。第42回日本音楽コンクール作曲部門第1位受賞。第27回ヴィオッティエ国際音楽コンクール作曲部門入賞。オーケストラ・プロジェクト99の作曲者として平成11年度芸術祭優秀賞受賞。1998年、サンクトペテルブルク音楽院オペラ・シンフォニー指揮科卒業。作曲を矢代秋雄、三善晃、尾高惇忠の各氏に、音楽理論をアンリ・シャラン、ジャン・クロード・アンリの各氏に師事。東京学芸大学特任教授、東京藝術大学作曲科講師、桐朋学園大学講師を歴任、現在、国立音楽大学および大学院特任教授、東京音楽大学講師。日本現代音楽協会副理事長、日本作曲家協議会、21世紀音楽の会、日本ソルフェージュ研究協議会各会員。

■主要作品

ソプラノとピアノのための<牡丹>/オーケストラのための<レクイエム>(1999)/オーケストラのための<イン・メモリアム>(2003)/源氏物語より<夕顔>(2006)/室内交響曲第1番<グリーン>(2010)/打楽器アンサンブルのための<ミステリウム>[国立音楽大学委嘱](2015)/<ヴァイオリン協奏曲第2番>(2016)/<パルティータ 弦楽五重奏のための>(2017)/<合奏協奏曲>[国立音楽大学委嘱](2017)/<交響曲>(2018)/電子オルガンのための<Emotional Sequence>(2021)/ヴァイオリンとピアノのための<ミステリウムII>(2022)。

著書に「楽譜でわかる20世紀音楽」(ARTES)共著の他、音楽之友社からミニチュア・スコアの解説と分析が多数出版されている。



山内雅弘 Masahiro YAMAUCHI

1960年仙台市生まれ。1986年東京藝術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。クルーズ国際ピアノ会議作曲コンクール第1位、シルクロード管弦楽作曲コンクール入賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選(第17回、第23回)、文化庁舞台芸術創作奨励賞(合唱組曲)。第16回朝日作曲賞を吹奏楽、合唱曲の両部門で同時受賞。受賞作品は2006年度の全日本吹奏楽コンクール、全日本合唱コンクールの課題曲となる。第2回東京佼成ウインドオーケストラ作曲コンクール第1位、第21回芥川作曲賞を受賞。2021年6月に初の作曲個展を東京文化会館小ホールにて開催。作曲を本間雅夫、北村昭、八村義夫、南弘明、松村禎三、黛敏郎の各氏に師事。東京芸術大学作曲科非常勤講師などを経て、現在、東京学芸大学教授。日本現代音楽協会理事、日本作曲家協議会副会長、オーケストラ・プロジェクト代表。

■主要作品

架空の伝説のための前奏曲/宙の形象-ピアノとオーケストラのための/管弦楽のための協奏曲/宙の記憶-オーケストラのための/主題の無いパッサカリア-オーケストラのための/ SPANDA-ヴィブラフォンとオーケストラのための/女声合唱組曲「十四行のうた」(全音楽譜出版社)/女声合唱組曲「天使のいろいろ」(カワイ出版)/男声合唱とピアノのための「蛙の交響～草野心平の詩による」/「合言葉」(教育芸術社)などがある。

2014年9月にはオーケストラ作品集CDをリリース(ALCD-99)

公式サイト

<http://masahiro-official.jimdo.com>

ツイッター

<https://twitter.com/compMY>



阿部亮太郎 Ryotaro ABE

東京生まれ。5歳直前からピアノを習い始める。作曲は中学まで独学。中学2年の時に作曲家の教師に楽典や和声を学び始める。中学までは「人気商売」にならぬよう自分の判断で友人に秘密で作曲を続ける。高校2年で音大進学を決断。東京藝術大学音楽学部作曲科および同大学院音楽研究科作曲専攻修了。文部省在外研究員としてパリ・エコールノルマル音楽院に短期留学。松村禎三、三善晃、平義久、浦田健次郎、山田泉の各氏に師事。

《宙吊りの海》で日本交響楽振興財団作曲賞入選。民音現代作曲音楽祭委嘱《逆説の綱目》。東京佼成ウインドオーケストラ委嘱で《串いとしての状況》。作品は、オーケストラ、吹奏楽、合唱、室内楽など。地域制作の音楽劇・吹奏楽曲や校歌数曲を作曲。論文・論考は、20世紀後半の日本人作曲家とその批評について、学校の音楽教育の実践場面について、原発事故やコロナ禍の状況下での表現活動について等。

現在上越教育大学大学院教授。作曲家協議会、アブサラス、越の風、日本音楽表現学会各会員。

■近作

《宙吊りの崖》(2017年 弦楽合奏)
《漆黒の綱目》(2019年 オーケストラ)
《メタふりかえり術》(2019年 トランペットとヴィブラフォン)
《置かれたものも動き出す》(2020年 弦楽四重奏)
《この世の風第1番》(チェロ独奏)
《同第2番》(マリンバ連弾)
《同第3番》(独奏ホルン、クラリネット、マリンバ、ピアノ)
《同第4番》(ヴィオラとヴィブラフォン)など



土屋 雄 Takeshi TSUCHIYA

東京音楽大学大学院修士課程修了。作曲を湯浅譲二、池辺晋一郎、西村朗の各氏に、指揮を三石精一氏に、オンドマルトノを原田節氏に、長唄三絃を杵屋五三吉氏に師事。またIRCAM(フランス国立音響現代音楽研究所)で先端音楽表象と電子音響音楽を学ぶ。第13回現音作曲新人賞、第66回日本音楽コンクール作曲部門に入選。2008年度ヴァレンチノブッキ国際作曲賞(ローマ)特別表彰を受賞。作品は日本音楽集団、CDMCからの委嘱作品の他多数。また電子音響音楽の分野では自作品の他、西村朗氏、鈴木純明氏の作品において電子音響パートのプログラミング、細川俊夫氏のオペラでは電子音響制作を担当する他、多くの作曲家の作品制作にも携わっている。近著にThe OM Composer's Book vol.3 ~ Dialogue with OpenMusic in the process of composing Nothing that is not there and the Nothing that is [Editions DELATOUR & IRCAM (フランス)],中ザワヒデキ、草刈ミカ主宰による「S/N」から「こころの素描」[編集・発行: AI 美芸研]等がある。日本現代音楽協会、日本電子音楽協会会員。

■主要作品

「拡張されたピアノのための映像」

1. 動く標的-もうひとつのInC-
2. 漲りて四方に-偽物と化粧手-
3. 響きの戯れ-「合」の確立への至上命令放棄-

「UNNATURAL SELECTION」(スライド付き)トランペット、ギターとレゾナンスのための「I have not but I am and as I am, I am ...」オルガンと8チャンネル・電子音響のための「Nothing that is not there and the Nothing that is」チェロと電子音響のための江戸川乱歩の小説にもとづく室内オペラ「RAMPO 2011」等

東京オペラシティ コンサートホール
<http://www.operacity.jp/>

〒163-1403 新宿区西新宿3-20-2 03-5353-0788

【電車】京王新線(都営地下鉄新宿線乗り入れ)初台駅東口下車 徒歩5分以内
都営地下鉄大江戸線 西新宿五丁目駅 A2出口より徒歩約17分
小田急線 参宮橋駅より徒歩約14分

【バス】新宿駅西口よりバス約10分(京王バス: 宿41/宿45 [幡ヶ谷不動尊]下車)
渋谷駅西口バスターミナルよりバス約20分
(京王バス: 渋64 [東京オペラシティ]下車) (京王バス: 渋63/渋66 都営バス: 渋66 [東京オペラシティ南]下車)